

平成 29 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業

「教育養成領域での人材育成」

報告書 資料編

平成 30 年 3 月

特定非営利活動法人
日本栄養改善学会

目 次

平成 29 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業（教育養成領域での人材育成） 管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討 ワーキンググループによる調査研究の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 管理栄養士・栄養士の教育カリキュラム現状分析ワーキンググループ・・・・・・・・・・	2
2. 管理栄養士・栄養士のめざす姿分析ワーキンググループ・・・・・・・・・・・・・・・・	70
3. 組織における幹部候補者育成ワーキンググループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	133
平成 29 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」 親会議構成員名簿・学会内検討会議構成員名簿・ワーキンググループ構成員名簿・・・・・・・・	188
特定非営利活動法人日本栄養改善学会理事・・・・・・・・・・・・・・・・・・	191
平成 29 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」開催経緯・・・・	193

**平成29年度管理栄養士専門分野別人材育成事業（教育養成領域での人材育成）
管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討
ワーキンググループによる調査研究の実施**

特定非営利活動法人日本栄養改善学会は、厚生労働省から「平成29年度管理栄養士専門分野別人材育成事業（教育養成領域での人材育成）」として委託を受け、管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討を開始した。

今回の検討に当たり、厚生労働省より提示された基本方針は以下の通りである。

- ① 社会状況の変化，多様化・高度化する社会や国民のニーズに対応できる管理栄養士・栄養士のめざす姿を明らかにし，それをふまえること。
- ② 現在の栄養士法の改定を伴うものではないので，現在の栄養士法の規定をふまえること。
- ③ 全国の管理栄養士・栄養士養成施設における教育カリキュラムと学位等の現状分析（大学院を含む）をふまえること。
- ④ 他の保健医療職のモデル・コア・カリキュラムを視野におくこと。
- ⑤ 栄養士養成（2年間），管理栄養士養成（4年間），大学院での高度人材養成（管理栄養士+2年間）の3タイプの栄養学教育モデル・コア・カリキュラムを作成すること。
- ⑥ 「コア」は，全教育カリキュラムの6割程度を目安に精査する。それにより，残りの4割を各養成施設の特徴を出すための教育内容に当てることを可能とすること。

【事業の目的】

平成29年度は，上記の方針に基づき，①管理栄養士養成（4年間），② 栄養士養成（2年間），③ 大学院の高度人材養成（管理栄養士+2年間）の栄養学教育モデル・コア・カリキュラムを作成する目標に向けて，管理栄養士・栄養士養成の「栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの枠組み」を提示することを目的とした。

【実施方法】

検討に当たり，厚生労働省健康局健康課栄養指導室より推薦のあったメンバー中心の親会議（栄養学周辺の分野を広くカバーできるメンバー構成），学会内検討会議（学会の「管理栄養士の教育のあり方委員会」委員と学会役職者（理事）を中心に構成），目的達成に必要な調査研究を分担する3つのワーキンググループ（日本栄養改善学会員の中から，専門分野と所属機関を考慮し，かつ次世代を担う中堅・若手の育成を視野において人選を行い構成），以上の3層構造の体制とした。3つのワーキンググループの名称と役割は以下のとおりである。

- (1) 管理栄養士・栄養士の教育カリキュラム現状分析ワーキンググループ
〔役割〕 管理栄養士・栄養士養成施設（含，大学院）の教育カリキュラム・学位等の調査，個別ヒアリング，収集資料の分析。
- (2) 管理栄養士・栄養士のめざす姿分析ワーキンググループ
〔役割〕 親会議意見の分析，多領域の管理栄養士の意見収集（調査の実施），他職種のコアカリ分析，海外の管理栄養士相当の資格におけるめざす姿・資質能力の分析。
- (3) 組織における幹部候補者育成ワーキンググループ
〔役割〕 幹部候補者育成に向けて，学部，大学院でどのような資質を形成すべきなのかを検討。

3つのワーキンググループによる調査研究の結果を次頁以降に資料として示す。